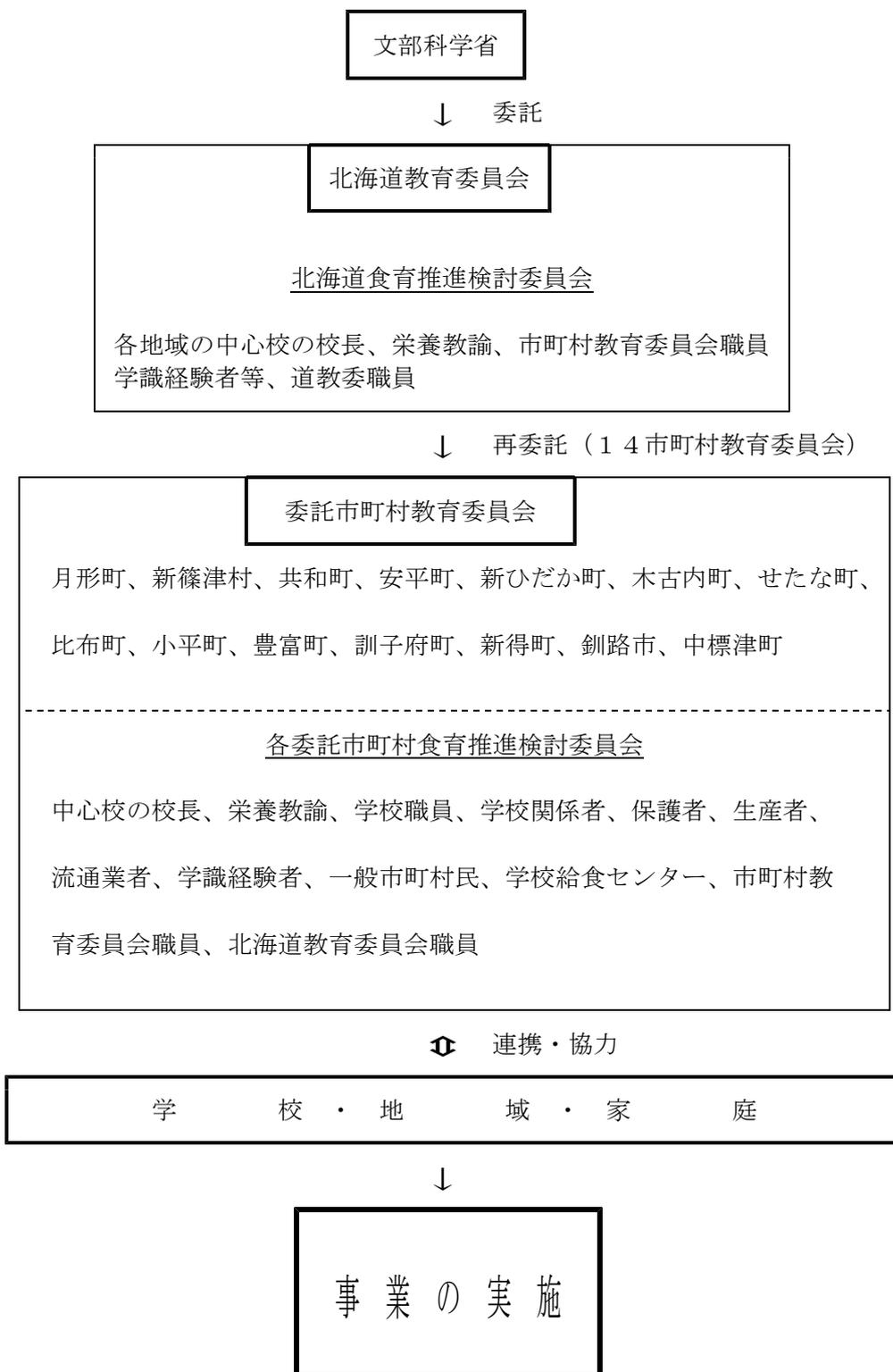


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	北海道
再委託先名	14市町村

1 事業推進の体制



2 事業内容

テーマ1	教職員間の連携及び家庭・地域の連携を図った食に関する指導の充実
	<ul style="list-style-type: none">・給食の時間や各教科等における食に関する指導の充実・栄養教諭、学級担任等が連携した食に関する指導の校内研修・体験学習を通じた取組・望ましい食習慣定着に向けた家庭、地域への啓発活動・食育講演会、親子料理講習会などの開催
テーマ2	地場産物の活用率向上のための地域の連携のあり方、家庭や地域への普及啓発の方策
	<ul style="list-style-type: none">・食育推進委員会や地域内ネットワークを活用した地場産物に関する情報収集、地場産物の活用率向上の取組・生産者等と連携した地場産物を活用した食育授業・各種通信の充実
テーマ1～2に共通する具体的計画	
<p>(1) 検討委員会の開催 各推進地域代表者、学識経験者及び北海道教育委員会職員で構成する「北海道食育推進検討委員会」を設置し、本事業の趣旨や日程、研究内容等を示すとともに、年度末に各推進地域実践した成果を交流し、その評価を行う。</p> <p>(2) 実践事例の普及啓発 ・再委託した14市町村の実践した成果をまとめ、「栄養教諭を中核とした食育の推進実践事例集」を作成、配付する。</p>	

本事業における評価指標と考察

- ①朝食欠食率～各推進地域において、数値的成果が見られた。
- ②地場産物活用率～各推進地域において、特に地元市町村産食品の品目数の向上が見られた。
- ③残食率～それぞれの地域で、食に関する指導の充実が図られた成果が見られた。特に体験活動を取り入れた地域がその食材を給食に活用するなど食に関する指導内容と献立の一体化、教材化が有効である検証ができたといえる。調査の方法が統一されていなかったため、全道の状況を数値で把握できていない。

本事業の成果

- ・本道14管内すべてから推進地域を指定したことにより、多くの市町村において食育推進のための連携体制を構築することができ、さらには栄養教諭の配置の成果を理解してもらうことができた。
- ・それぞれの指定地域ごとに、実践中心校やその市町村がもつ食に関する課題をテーマに取り上げた実践研究をすすめたことにより、学校内の教職員の共通理解を図ることや、地域の人材や施設をうまく活用させるなどのネットワークを充実させることができ、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の充実を図ることができた。
- ・本道における食育の推進の課題として上げられている地場産物や体験活動を取り入れた食に関する指導、望ましい食習慣の形成、食べ物を大切にする心の育成、食育の推進体制の構築を今後全道で取り組んでいくための先進的な事例を「食育の推進実践事例集」としてまとめることができ、普及・啓発するための手立てができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・広域で、学校数が多く広く点在している全道において、食育を推進していくためには、特に栄養教諭のコーディネーターとしての役割が重要となり、食育への取り組み方や体制づくりなどの課題に対応するための方策が必要である。
- ・食育の推進の状況を把握し、栄養教諭の配置促進の成果を検証していくためには、状況把握のための調査等の方法を全道で共通認識する必要がある。